



第 2 3 4 号

連 携 室 だ よ り

公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院



帯広第一病院理念・基本方針

【理 念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基 本 方 針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

10年を振り返って

北海道医療団 専務理事 山並 秀章



私が帯広第一病院の院長になったのはちょうど10年前、2015年7月になります。その年の11月に最初の病院機能評価受審、その後も地域包括ケア病棟開設、緩和ケア病棟開設と忙しく過ごしてきました。しかし、なんと言っても心に残るのは2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の蔓延に対する対応です。他病院にならって、当院でも少しずつ受け入れを拡げていきましたが、途中で起きた大規模な院内クラスターの対応には大変苦労しました。災害級の感染症に対応し、地域の医療体制を守ること、職員を守ることについて日々、最良と思える選択をしてきたつもりですが、今となってみると、反省することしきりです。

コロナが五類になってからは民間の医療機関として経営をどのように安定させるかに力を注いできました。まだ道半ばですが、今後は法人の専務理事として、井伊新院長とともに帯広第一病院の経営に関わっていく予定です。

10年間、お世話になってきた他医療施設・介護施設の皆様、職員の皆様に御礼を申し上げますとともに、今後も新院長および帯広第一病院に対し、ご指導ご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

今号の内容

- ・ 10年を振り返って 北海道医療団 専務理事 山並 秀章 (1)
- ・ 帯広第一病院院長就任のご挨拶 院長 井伊 貴幸 (2)
- ・ 令和6年度訪問看護ステーションたなごころ実績報告 訪問看護ステーションたなごころ所長 大溝 敬子 (3)
- ・ 音更病院施設紹介 音更病院 事務長 西川 和彦 (4)

帯広第一病院院長就任のご挨拶

井伊 貴幸



令和7年7月1日より、帯広第一病院の院長を拝命いたしました井伊貴幸と申します。私が帯広に赴任して15年が経ちます。地域医療に携わる中で、多くの患者さまや医療・福祉関係者の皆さまと関わる機会をいただき、この地の温かさと、医療のつながりの大切さを日々実感してまいりました。

また、2015年7月より10年間にわたり当院のかじ取りを担ってこられた山並前院長の後任として、その思いと取り組みをしっかりと引き継いでまいります。今の帯広第一病院があるのは、地域の先生方の継続的なご支援のおかげであり、改めて深く感謝申し上げます。

この春から、総合診療科・消化器内科・外科の各科長が新たに就任し、診療体制としても新たなスタートを切っております。なかでも外科は当院の大きな強みの一つであり、肝胆膵外科高度技能専門医が常勤し、日本肝胆膵外科学会より「肝胆膵外科修練施設」として認定を受けています。さらに、内視鏡外科技術認定医による腹腔鏡を活用した低侵襲手術も行っており、身体的負担を抑えつつ、安全で質の高い手術を提供しています。

また、消化器内科・外科が密に連携し、診断・手術・化学療法・緩和ケアに至るまで、消化器がんに対する一貫した包括的医療を提供しています。これにより、患者さんの状態や希望に寄り添った柔軟な対応が可能となっております。

総合診療科では、地域の高齢化に対応すべく、特に高齢者の急性疾患や救急対応に注力し、幅広い疾患への初期対応を担っています。地域のかかりつけ医の先生方からのご相談にも、迅速に対応できる体制を整えています。

今後とも、地域の先生方と密に連携しながら、より良い医療の提供に努めてまいりますので、引き続き温かいご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和7年7月
帯広第一病院 院長
井伊 貴幸

令和6年度訪問看護ステーションたなごころ実績報告

訪問看護ステーションたなごころ 所長 大溝 敬子



地域の先生や地域医療連携室のスタッフの皆様には、日頃より大変お世話になりありがとうございます。現在、当事業所では看護師6名、理学療法士2名、作業療法士2名、事務員1名で在宅医療に取り組んでおります。令和6年度の実績をご報告致します。登録利用者数は月平均175名（前年比+5名）、訪問件数857件/月（前年比+5件/月）、自宅お看取りは13名/年（前年比-1名/年）となりました。

今後も24時間365日の体制を継続し、看護やリハビリを通じ生活の質の確保を支援し「自分らしく過ごしたい」というご希望を応援していきたいと思っております。7月より看護・リハビリの空き情報をHPに掲載・更新していく予定です。ご自宅での体調・内服管理、療養指導、在宅酸素や呼吸器等の管理の医療的ケアや自宅お看取り、通院・通所が困難でハビリをご希望の方等、是非ご紹介をお願い致します。今後も訪問看護を必要としている方々に対し住み慣れた場所で安心して生活できるように、より質の高い看護・リハビリで支援させていただきます。

令和6年4月～令和7年3月までの実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数		170	174	170	171	172	165	168	157	160	162	153	154	1976
延件数		857	902	905	937	862	875	951	834	843	806	706	809	10287
介護	人数	151	156	150	145	148	143	144	135	138	138	132	130	1710
	件数	716	785	769	785	715	710	773	679	685	639	570	634	8460
医療	人数	18	17	19	25	23	21	23	21	21	23	20	23	254
	件数	138	114	132	148	142	161	174	151	155	164	133	171	1783
公的訪問	人数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	件数	3	3	4	4	5	4	4	4	3	3	3	4	44
在宅看取り (GH等含む)	人数	2	1	1	0	1	1	0	3	1	2	0	1	13

音更病院施設紹介

音更病院 事務長 西川 和彦

療養病床として108床であり、54床ずつ2病棟あります。寝たきりで経管栄養やCVポートで輸液管理をしている方が多いです。看護師、准看護師、介護福祉士、ケアワーカーが在籍しており、子育て中からキャリアの高い職員まで幅広いため、お互いを思いやり働きやすい環境です。

主に力を入れていることは、下記のとおりです。

- ① **清潔に関すること** 介護福祉士やケアワーカーが主体となってケアしており、お顔や口腔内は、本当に綺麗で臭いがありません。
- ② **褥瘡ケア** 褥瘡を持って入院されても、治癒することが多いです。
- ③ **終末を迎えられる患者家族との関わり** ご本人が大切にされていたことは何かを考え、カンファレンス以外でも、自然に職員同士の会話に「これを大切にしていたと聞いたからこうしよう…」とあり、プラン化して実施されていきます。コロナ禍で面会制限されているからこそ、小さな気づきを家族に伝えたり、最後の場面に会えるように早めに声をかけたりと、当たり前ですが実行しています。プライベートも大切にしつつ、ケアにもこだわりを持ち、やりがいのある職場です。

薬局

院内薬局として外来患者様へきめ細やかな対応と処方待ち時間短縮をめざしております。ジェネリック医薬品も積極的に取り入れております。

放射線科

知識・技術ともに熟練した常勤技師が撮影しています。検査結果はわかりやすくまとめ、医師の診断のサポートをしています。

外来、健診、入院患者の撮影のほか、併設施設の入所者の撮影も柔軟に対応します。今年度からCT装置を更新しました。患者様の病気の究明やAIも行い、近隣医療機関からの撮影依頼を受け入れています。

臨床検査科

常勤の臨床検査技師が、外来・健診・入院と幅広く検査しています。

リハビリテーション科

入院患者様一人ひとりの状態に合わせたリハビリテーションを提供し、長期臥床による身体機能低下を防ぎADL（日常生活動作）の維持に努めております。

栄養科

管理栄養士による栄養相談、栄養指導を行っております。地域住民の皆様への健康維持のための講話などもお受けしております。

公益財団法人北海道医療団 音更病院

〒080-0318 音更町緑陽台南区2番地6



発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療介護連携科

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3

TEL 0155-25-3121（病院代表） / 0120-558-091（連携科直通）

FAX 0155-27-0248（連携科専用） e-mail renkei@zhi.or.jp

